

高知県におけるストロー効果

合成コントロール法を用いた実証分析

1220560 宮崎翔大

指導教員 矢内勇生

研究背景

日本では、公共事業関係費に多くの費用が投じられている。高知県では、四国8の字ネットワーク整備と題する高速道路整備が行われている。高速道路整備が沿線地域の経済に与える影響を明らかにすることにより、高速道路整備が地域活性化を促進させるか確認したい。

研究目的

高知県におけるストロー効果の発生を実証分析で確認し、高速道路整備が沿線地域に与える影響を推定することを目的とする。

研究方法

高知自動車道の須崎西 IC、四万十中央 IC 間を整備することの効果合成コントロール法を用いて推定する。影響を受ける沿線地域として、須崎市と四万十町を対象に卸売・小売業の総生産に与える影響を推定する。

分析結果

高速道路整備は、四万十町の卸売・小売業の総生産を毎年平均して約 7.12 億円減少させ、須崎市の卸売・小売業の総生産を毎年平均して約 9.86 億円増加させることが明らかになった。沿線地域への影響は一時的ではなく、持続することが確認された。

結論

高速道路整備は、都市部である須崎市を発展させ、中山間地域である四万十町を衰退させるストロー効果が発生させることが確認できた。それぞれの市町村への効果を足し合わせると、効果の総量はプラスであることが確認できたが、高速道路整備が地域間格差を拡大させている。